

地域デビュー

ほうげんぎょう

毎年正月に地元で行われる「ほうげんぎょう」。青竹を束ねて組立てた櫓やぐらに火をつけ勢いよく燃やし、その年の五穀豊穡や無病息災を祈る伝統行事である。輪番で当番がまわってきたこともありましたが、地域デビューのきっかけになると思い、その準備に参加させていただきました。

準備当日、初めて会う方がほとんどで少し緊張していた自分に、高齢者の方から「よく来てくれたね。」と親しく話しかけていただき、緊張の糸もすぐにほぐれたことを思い出します。

作業がスタートすると、それまでのなごやかな雰囲気から一転、作業の中心となる高齢者の方は真剣な表情でチェーンソーや斧などを使い、手際よく竹を切り始めました。そして、時にはその使い方を私たちに教えながら作業を進められました。体力には少し自信があったつもりですが、逆に高齢者の方に「大丈夫？少し休もうか？」と声を掛けて気づかせていただきました。

切られた竹や笹を運び、高齢者の方、地域の皆さんと一緒にやぐらを立てたときの達成感は、今でも忘れられません。

そして、何よりもこのような地域行事に参加したことで、いろんな方とコミュニケーションを図ることができたことが、自分にとって大きな財産になったのではないかと思います。

また、高齢者の方と触れ合って知識や経験はもちろんのこと、他人への心づかいや人との関わり方など、大切なことを学ばせていただきました。

私はこの地域デビューをきっかけに、けっして無理はせず、できるときに参加するという気持ちで地域活動に参加するようになりました。



出会いを大切に

最初は「こんにちは。よろしくお願ひします。」と軽くあいさつを交わす程度でしたが、夏祭り、運動会、餅つき大会、地域清掃など、高齢者の方からいろんなことを学びました。共に一緒に汗をかくことを重ねるうちに、少しずつ顔も覚えてもらい、今では普段の生活の中でもあいさつを交わして、気軽に話せるような関係を築くことができています。そして、次第に、公民館にも出向くようになり、そこで出会う子どもたちや地域の人たちと触れ合うことも多くなりました。

私は地域デビューをきっかけに、いろんな世代の人たちとの交流を深めることで、自然に相手を思いやる気持ちも育てられてきたと感じています。

これからも地域の伝統行事に触れ、そこから生まれる出会いを大切にしていきたいと思っています。